

令和元年度 校内授業研修会 家庭科 研究協議会

期 日：令和元年12月11日（水）

場 所：家庭科室

司 会：片桐 章 先生

指導助言者：秋田県総合教育センター 教科・研究班 指導主事
部谷 靖子先生

参加者：A班 浦先生・笠原先生・小澤先生・後藤（俊）先生

B班 大須賀先生・宇佐美先生・山田先生

記録者：山田 美穂子 先生

1 授業者からの感想（浅沼 和子先生）：

今後一層の指導の充実が求められている消費生活と環境の問題について、生徒自身の身近な問題として考えさせたいと思い、コンビニでのペットボトルの購入とレジ袋の使用を題材として取り上げることにした。4時間の小単元単位で授業を構成しており、本時はその3時間目に当たる。グレタさんやCOP25の話題を導入として用いた。前時にテーマに関連する3つの記事を資料として与え、本時では生徒が相互にその内容について説明しあう活動を前半に置いたが、予想以上にその部分に時間がかかり、後半に割ける時間がやや不足気味になってしまった。次時にはSDGsの内容について紹介し、そこで一区切りということになる。冬休みの課題等の形で生徒の理解をより深めたいと考えている。授業で学んだことが、行動の変容につながってくれたらと思う。

授業形態について…今回は協働学習ということで、ジグソー学習法を取り入れてみた。やや形式にこだわり過ぎて、生徒の声を拾いきれなかったのではないかと反省している。

教材について…パワーポイントは毎回使用している。資料の吟味がやや不十分だったかもしれない。もう少し取りかかりやすく分かりやすい資料があればよかった。ワークシートについては文言の不統一があり、その点をもう少し整理できればよかった。

2 各班からの報告

A班（笠原先生）：

すばらしい授業だった。家庭科の授業は今まで参観する機会がなかったが、社会的な問題が身近な問題として取り扱われていて、とても有意義だと思う。ジグソー形式がとてもよかった。生徒は事前に他の生徒と意見交換をしてから自分の班に戻って発表、という流れになっており、それによって考えを深めて自信を持って発表できていたと思う。事前の準備が入念に行われており、とても丁寧だった。授業中の指示もとても明確で、きびきびとした活発な活動を促していた。

改善点としては、さらに一歩進めた考察として、環境保護の面で問題点も多いコンビニが、なぜこんなにも普及しているのかを考えさせてみるのもいいのではないか。また、3つの資料記事を提示する前に、何もない状態から生徒自らがコンビニの問題点を考えさせてみるのもいいかもしれない。

B班（大須賀先生）：

とても活動的な授業だった。授業のねらい・教材・指示のすべてがよく練られていた。ジグソー形式により、生徒たちは自分が代表だという意識も持って発表していたのではないかと思う。それがより深い学びへとつながっていたと思う。

改善点としては、やはり後半にもう少し時間を割くことができれば生徒の理解がより深

まったのではないか。環境問題は他教科でもよく扱われる内容であり、ともすれば画一的な解決策で終始してしまいがちなので、時間をかけてもう一步深めることができればなおいいのではないかと感じられた。

3 指導助言（部谷先生）：

民法の改正によって成人年齢が引き下げられることになり、消費者教育の一環として家庭科においても「持続可能な生活と環境」が新たに項目立てされ、高校では「消費行動が社会に与える影響について考える」ことが求められている。今回の授業はまさにその目的に合致した内容だったと思う。

指導案について…学習課題や授業のねらいが非常に明確である。当事者意識の持てる、しかもゴールが明確なテーマになっていて、それは評価の際にも生きてくると思われる。

授業について…ジグソー形式の対話によって、自分の考えを自覚してまとめたり、見つめ直して深めたりが効果的に行われていた。またICTの活用によって授業の流れが一目で分かるようになっていた。「主体的学習」のためには学習の見通しを持つこと、振り返ることが不可欠で、その意味でも有効であった。「深い学び」という観点では、生徒が自分で考える場面と、教師側から提示する場面が効果的に使い分けられていた。「対話的」という観点から見ても、「他者の話を聞き、自分の意見を述べる」ジグソー形式は効果的だったと思う。

「他教科でも似たテーマが扱われている」という意見があったが、各教科ならではの見方や考え方からアプローチできるのではないか。それはキーワードの選択・提示にも生きてくるだろうし、また、生徒の見方や考え方の変容を促すことができているかという、教師自身の授業改善の視点としても考えることができると思う。家庭科に当てはめて考えると、衣食住を一通り学んだ後の総括として最後に環境問題を扱う、という流れも考えられると思う。

評価の際の観点としては、事前の知識に基づいた答えではなく、学習を通したからこそ出てくる答えを評価したい。

